

システムイノベーションセンター 第二次中期事業計画 (v.2.6)

2022年1月26日

Copyright 2021 System Innovation Center

SIC事業のコンセプト

SICの3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの実装に向けた推進支援
- 人材育成

2019年

日本のシステム化の揺籃期を担う 初動組織となる

【第一次中期計画】

- 〈システム化力による産業力強化〉
- 〈日本のシステム化のグランドデザイン提示〉
- 〈システム化人材育成強化〉
- 〈センター体制強化〉

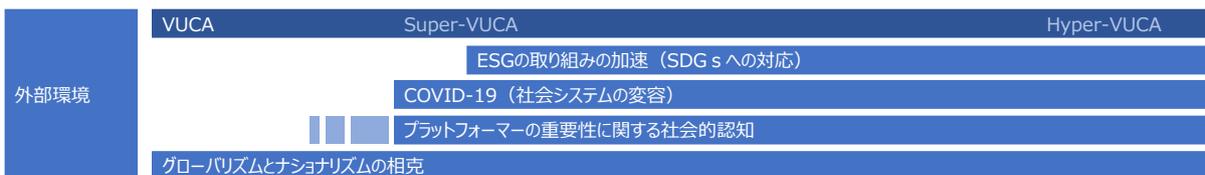
継続と深化

2022年

日本が直面する課題の達成に向けて システム化の有効性を社会に示す 【第二次中期計画】

課題

- ・モノを要素とするシステムから人を要素とするシステムへ
- ・学との連携を強化（社会システム科学の創設）
- ・人材育成のプログラムの構造化（システム化講座の体系化・教材整備、ケーススタディ講座のパッケージ化、など）
- ・SoS、ミッションクリティカルシステムなど、現実の社会システムの
実装課題への対応
- ・少子高齢化など、喫緊の社会課題の対応へのシステム化
アプローチの有効性を示す



中期事業計画策定にあたって

【理念の継承と新たな展開】

SICの基盤としてきた3本の柱（●企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援、●優れた社会システムの実装に向けた推進支援、●人材育成）に沿っての活動を一層推進していくために、そのそれぞれの課題と目指す方向を次のように定める。

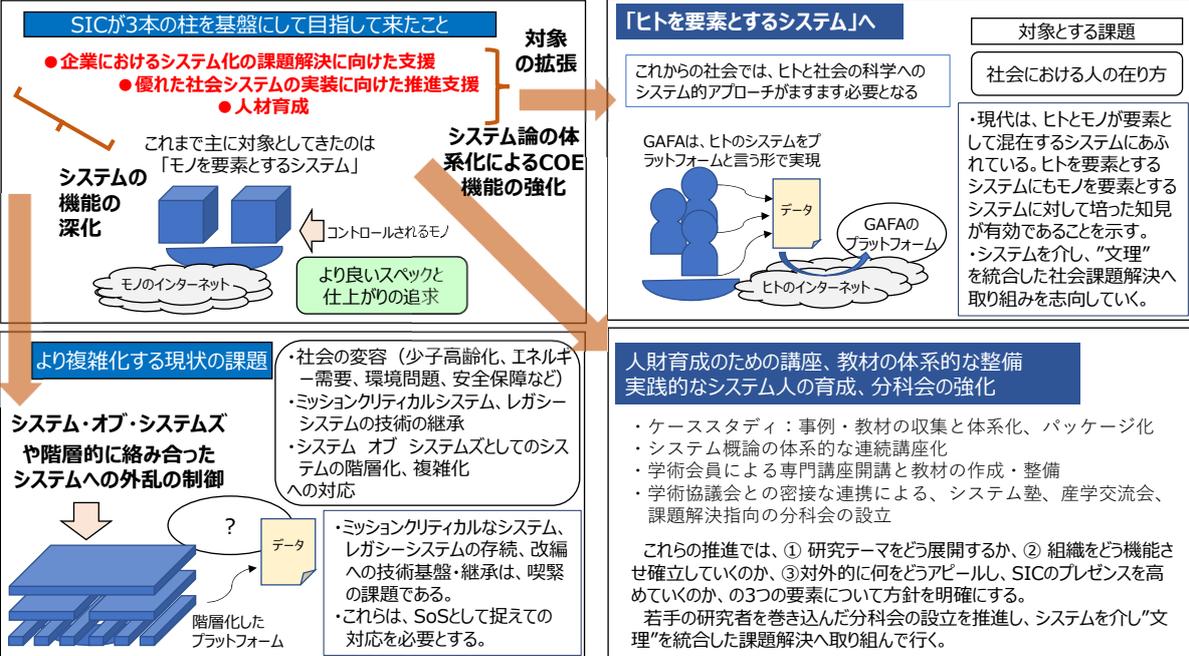
- ・モノを要素とするシステム（工業製品、インフラなど）から人を要素とするシステムへ重点をシフトし、そこでのシステム化の課題を掘り下げ必要な提言を行う。
- ・社会の変容（少子高齢化、エネルギー需要、環境問題、安全保障など）、ミッションクリティカルシステムやレガシーシステムの技術の継承、システムオペシステムズとしてのシステムの階層化、複雑化、などへ対応するシステムの機能の深化を図る。
- ・人材育成のための各種の講座、教材の体系的な整備と実践的なシステム人の育成、および、新たな社会ニーズに応える分科会の設立による、システム論の体系化を図り、SICの体制の強化をめざす。

【重点的な方針】

- ・学との連携を強化する。学術協議会への、社会科学（社会ネットワークや計算社会学などの新興分野や組織科学）の研究者の参加を呼びかけ、システム科学としての学術基盤を拡充する。また、学会員によるそれぞれの専門分野についての、企業会員向けの講座を定期的に開催する。
- ・分科会などでの具体的なシステム構築の活動（特に、社会システムの実装における課題の整理とPOC検証）を奨励し、SoSをベースとしたシステムの実例提示（ミッションクリティカルシステム、多種の輸送手段を統合したPhysical Internetなど）とその構築などの推進を図る。
- ・ケーススタディ講習会で提出されたケースを提出企業のシステム化に結び付ける。
- ・人材育成のプログラムを、「人を要素とするシステム構築」の教育を柱とした大学学部並みに構造化した形で、社会人教育としてセンター内外に提供する。

Copyright 2021 System Innovation Center

【第二次中期計画への活動の展開】



【第二次中期計画の要点】

【斎藤センター長「2022年・年頭のあいさつ」、SICニューズレター、Vol.4.1、2022年1月】より、一部抜粋

日本社会のDXプロジェクトは、今後のデジタル時代に合わせて、社会システムを再構築していくという視点で、関係者が一致団結して推進することが求められます。

次代のわが国の社会（Society 5.0）のあるべき姿（ビジョン）をクリアに描き、政府の強力なリーダーシップのもとに、産・学・官が一体となって推進すること、そのために必要な「場」を作り、目指すべき社会の実現に向けて「情報」を共有し、（産・学・官で）知恵を出し合い、協力し合う、強固なチーム作りをすることが必須ではないかと思えます。そして、こうした「場」のイメージが、産業界と学术界が連携して、「現在の社会、産業界での変化を社会構造の変革期と大局的に捉え、時代に先駆けた社会、産業界でのイノベーション実現を目的に設立した」本センターの目指すべき方向に重なります。

本年は、本センターとして、これまでの会員企業への価値提供に加え、経済界や産業界の発展にも繋がるデジタル庁を起点とした日本社会への価値提供にも取り組んでまいりたいと思えます。

【「ヒトを要素とするシステム」への拡張：木村副センター長、コラム「システムと人間」、同上ニューズレター】より、一部抜粋

SICではこれまでどちらかと言えばモノを要素とするシステムへの関心が高かった。規格化、標準化、共通化、統合化、モジュール化、オープン化、などでの遅れが日本の産業競争力の劣化を招いているという認識がその背景にあった。しかし、最近ではSICの会員企業の問題意識が変わってきた。例えばサプライチェーンのシステム化にはかなりの興味が集まり、現在これをテーマとする二つの分科会が活動中である。サプライチェーンはシステムとしてみればその要素はむしろモノよりもヒトである。また、データ駆動による商行為の効率化を目指す分科会も活動しているが、これもシステムとしてみれば要素はヒトである。この傾向は、「供給サイドから消費サイドへ」「性能向上から価値創出へ」という、すでにかなり前から起こっている産業界全体の地殻変動を反映したものに他ならない。そこで浮かび上がってくるのは「ヒトを要素とするシステム」の重要性である。

すぐに想像されるように、ヒトを要素とするシステムはモノを要素とするシステムよりはるかに取扱いが難しい。難しいがゆえにこれまで本格的に議論してこなかったとも言える。しかし、産業界の未来にそびえる「新しい山」を登って行くには、「ヒトを要素とするシステム」に正面から取り組むことが必要であろう。

Copyright 2021 System Innovation Center

「ヒトの価値」中心のシステムの目指す姿

